



学園花の村機関紙第68号

2012年8月3日(金)

編集兼発行人 伊藤公博

TEL・FAX
(042) 636-8291
〒#
mitoh@alto.ocn.ne.jp

難しい問題は楽しく実践して

考えようね

里山倶楽部

溝口博之



元市長の榛村純一氏はその著書の中で折に触れ中間農山村の荒廃を嘆きその再生策を提案されてきました。報徳思想を広め、物質から心へ考え、生産地が貧乏暮らし、消費地が王さまというパターンから、生産地が安全、新鮮、おいしいものを消費して、あまりにいいから消費者におすそ分けしてあげるといふ誇りを持たなければならぬ。と述べております。

このことは、報徳思想の実践者である故宮城翁が創設された学園花の村の無農薬有機野菜が掛川道の駅などで売られ大好評を得ていることなどに成果が出ています。しかしながら、物質的豊かさの享受になれてしまった多くの現代人は、こんなに豊かな時代になっても、もっと豊かな収入を求め心の豊かさを享受できないでいるようです。一つには他人との比較、格差を意識し過ぎ一喜

一憂している人が多い。中国の目覚ましい経済発展に一口乗って彼の国に工場を作り、日本の技術を持ち出し、日本人の働き場所をうばわれ、国内需要が落ち込み、国民の幸福感が落ち込んでいるのかもしれない。

宮城翁が亡くなられ、今後この思想をどのように継承していくかが会員に与えられた宿題でしょう。みぞぐちおじさんは、庶民の遺伝子を持つているからして、難しいことは苦手です。

農業を楽しむ、里山を楽しむ、自然を楽しむ・・・そんな中から、スローライフの実践をしていきたいと思うのです。

里山倶楽部第一回目は倉馬の里紹介、バーベキュー大会で盛り上がりました。



折からの雨の中、美しいくらの里の風景を楽しむ里山倶楽部の皆さん

原発交付金は宝くじ

学園花の村 池守幸一

7月2日放送の「TVタックル」に1分間ほど出て、脱原発を訴えました。テレビ朝日が大飯原発の再稼働に合わせ通常の1時間枠を3時間にして原発特番を企画、現地取材は浜岡ということで、偶然にも取材を受けることになり、取材当日あの阿川佐和子さんがカメラマン同道で来宅、縁側に座ってインタビューとなりました。番組は原発交付金をテーマにする聞いていたので「交付金は宝くじ」という論旨を組み立ててインタビュー本番に臨んだのでした。

原発の交付金は宝くじのようなものだ。宝くじに当たって幸せになったという人はいない。タナボタのお金とほそういうもの。この町は40年連続で宝くじに当たり続けてきた。この先も当たり続けたいと願っている。そんなのいいことない。キッパリ原発を止めて自分の足で立たないとダメだ。と、インタビューで阿川さんに話したのです。インタビューは1時間、オンエアは1分間。丁寧に編集されていたとの印象です。

毎金曜日の官邸前や17万人大集会の報道を聞くと、これは大きく時代が動くかもしれない、高度に発達した資本主義社会というものもこうやって次のステージに行くのかもしれないと、ひそかに期待してしまいます。そして独りよがりですが、ほんの少しずつだけ進む有機農業の動きも実はベクトルの方向は同じ、世界と日本の世直しの方向は、「そう、こっちはだよ」と叫んでしまいたくなります。ともあれ、全国ネットのテレビに映るとは一生に一度の得がたい経験でありました。